

また、川や海のきれいさ、水辺の親しみに関する市民の満足度については、計画開始前より向上しており、計画目標は達成しましたが、2019年度調査において3割程度にとどまっています。(表2-1)

このようなことから、水環境に係る今後の課題として、水辺空間を含めた水環境のさらなる改善を進め、市民満足度の向上や生物多様性[※]の保全などを進めていくことが必要です。

取組項目	目標	計画改定前	最新の状況	評価
水質汚濁に係る環境基準 [※] 達成率	BOD [※] について100%	92%(2009)	100%(2018)	○
市内河川における水の透明度 [※]	70cm以上	70cm(2009)	72cm(2018)	○
きれいな水質の指標となる魚種の確認地点数	全19地点で確認する	9地点(2006)	10地点(2017)	×
川や海のきれいさに対する市民の満足度	15%以上とする	7%(2009)	27%(2019)	○
親しみを感じる水辺に対する市民の満足度	向上させる	19%(2008)	29%(2019)	○

表2-1 大阪市の水環境 主な取組みの結果

第2節 計画の基本体系

第1項 計画のめざすもの

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画は、大阪府が広域的観点から取り組む、官民連携によるプラスチックごみを含む海岸漂着物等の回収、発生抑制対策やマイクロプラスチック[※]の情報発信と、大阪市が住民に身近な観点から取り組む水質の保全や健全な水循環の構築、快適な水辺空間の保全と創造を一体として取りまとめ、推進体制を構築し、地方創生に資する地方自治体によるSDGs[※]の達成に向け、以下をめざします。

① 海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与する。

SDGs[※]の特性である経済、社会、環境の三側面の取組みを統合的にマネジメントし、全体最適化を図ることにより、G20大阪サミットにおいて共有された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の目的である「2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロ」の実現に寄与します。

② 「大阪市環境基本計画[※]」の水分野の個別計画としてSDGs[※]の達成に貢献する。

2019年に策定した「大阪市環境基本計画[※]」においては、SDGs[※]の考え方を積極的に活用し、安心・快適な環境と活力ある経済・社会が好循環する「SDGs[※]達成に貢献する環境先進都市」をめざしており、本計画においては水分野の個別計画としてSDGs[※]の達成に貢献します。

第2項 計画の目標と5つの柱

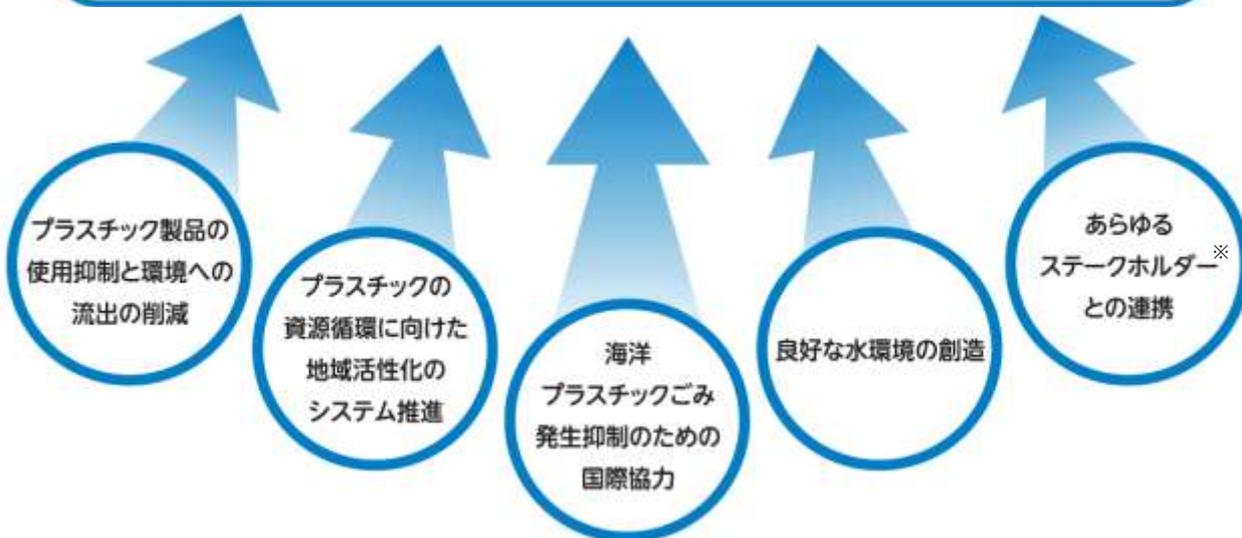
本計画では、「海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与」するとともに、「大阪市環境基本計画[※]の水分野の個別計画としてSDGs[※]の達成に貢献」することをめざして、「プラスチック製品の使用抑制と環境への流出の削減」、「プラスチックの資源循環に向けた地域活性化のシステム推進」、「海洋プラスチックごみ発生抑制のための国際協力」、「良好な水環境の創造」、「あらゆるステークホルダー[※]との連携」の5つを柱に掲げ、目標の達成に向けた施策を積極的に展開します。

めざすもの

- ①海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与
- ②大阪市環境基本計画[※]の水分野の個別計画としてSDGs[※]の達成に貢献

計画の目標

- ①2030年度に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減^{*1}する。
- ②河川・海域の水質に係る国の環境基準[※]を100%達成、維持するとともに、水環境に関する市民満足度を40%^{*2}まで向上する。



- * 1 : ごみ量削減について
大阪湾に流入するプラスチックごみの量を、現状を100として、2050年度のゼロからバックキャストिंगして設定。プラスチックごみの量が線形で減少していくと仮定すると2030年度は3割減になるが、一般的にゼロに近づくとも削減スピードが落ちていくと推定されることから、5割減と設定。
- * 2 : 現状の満足度(20%)の2倍として設定。
調査方法は巻末資料に記載

